

Kurokyo.com

黒田恭一の、まちがったらごめんなさい

音楽三昧 5人のアンサンブルユニットによる、ゴルトベルク変奏曲

もっとたくさんの人たちにきかれればいいのに、と思う素敵な音楽にもかかわらず、いい音楽を求めているききてに巡り合えないままになってしまうことがあります。待ちあわせをした少年と少女でしたら、たとえ上手く落ちあえなかった

としても、携帯電話という便利な道具もありますので、「どこにいるの？」のひと声で、すれ違いを回避することができます。しかし、いい音楽を求めているききてと素敵な音楽の間では、残念ながら、出会いの機会を失ったままになることが珍しくありません。

どのようにして、コンサートやオペラの公演をお探しになっていますか？ 規模の大きい公演でしたら、新聞や雑誌で大々的に宣伝されます。そのような公演の場合、音楽好きの間で話題になることも多いので、気づかずに見逃してしまうことはないと思います。問題なのは、小さなホールで催される、実力はあ

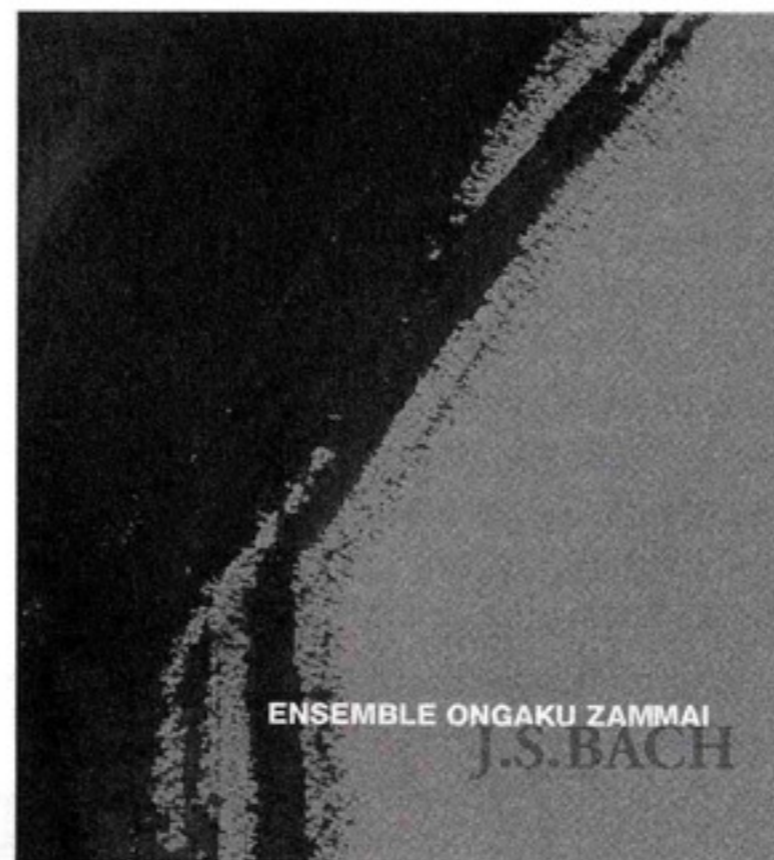
って、専門家筋では評価は高いのに、一般的な知名度という点でまだ充分とはいえない若いアーティストによっておこなわれるコンサートです。

そのようなコンサートの場合、演奏される作品も馴染みのないことが多く、演奏者も、あちこちで名前を目にするスター演奏家というわけではないので、ききてのなかには、取りつく島がないと感じる人がいても不思議はありません。多くの場合、コンサートを選んだりCDを選んだりするときには、斯く斯く然々でききたいという、具体的な理由がありま

す。知らない演奏家のコンサートだったけれど、音楽好きの友だちが、とてもいいからとすすめてくれたので、という理由も、立派に理由としてなりたちます。

ぼくの経験で申しますと、実は、派手に宣伝されることもなく、したがって目だちににくい、ひっそりと開催される地味なコンサートで、生きた音楽と出会い、忘れがたい体験をすることが少なくありません。もっとも、小さなホールで催される地味なコンサートであれば、そのすべてで生き生きとした音楽と出会える、ということではありません。小さなホールでおこなわれるコンサートの場合、往々にして、客席を親類や知人を動員して埋めたと思えない、おさらい会もどきのコンサートであることもあります。玉石混交は世の常で、小さなホールで催されるコンサートも例外ではありません。

アンサンブル「音楽三昧」をご存じでしょうか？ 作品に応じて、フラウト・トラヴェルソ、ヴィオラ・ダ・ガンバ、チェンバロ等の古楽器と、フルート、チェロ、コントラバス等のモダン楽器を小気味よく駆使して、鮮度抜群の音楽をきかせてくれるユニットです。ショスタコーヴィッチの交響曲第5番とプロコフィエフの「ロメオとジュリエット」の音楽をおさめたアルバムのタスキには、「驚異の編曲・演奏で作品の魂に肉迫する、たった5人のフルオーケストラ」とあります。このことばは「音楽三昧」の特徴をもの見事にいあてています。



2



でられる音のうちを勢よく流れる細胞のひとつひとつまで見えるような気持ちになってきます。そして、同時に、ほんとうに新鮮な演奏とは、このような演奏をいうのであろう、と思ったりもします。

「音楽三昧」の、バッハの大作「ゴルトベルク変奏曲」を演奏する、なんとも興味深いコンサートが、1月23日につくば市ノバホールのホワイエで、2月1日には東京オペラシティのリサイタルホールでおこなわれます。ご参考までに書いておきますと、オペラシティのリサイタルホールの客席数は286です。このコンサートこそ、まさに小さなホールで極上の音楽をきく醍醐味の味わえるコンサートの代表的な例といえるでしょう。チケット代は、これまでの例から判断すれば、前売り3,500円、当日売り4,000円です。

大々的に新聞等で宣伝されて、華やかに開催されるコンサートのなかにも、むしろ、素晴らしいコンサートはたくさんあります。しかし、人目につきにくいところで、慎ましく開催されるコンサートでも心に残る音楽に出会うことができるという、その絶好のサンプルとして、「音楽三昧」がバッハの「ゴルトベルク変奏曲」を演奏するコンサートをおすすめしたいと思います。この件に関しては、ぼくは、「ごめんなさい」とお詫びしないうですませられる自信があります。

(音楽評論家)

「音楽三昧」のCDでは、1年ほど前に発売されたバッハの作品を演奏した2枚のアルバムが大きな話題になりました。一枚がイタリア協奏曲等を演奏した、チェンバロのための作品をとりあげたアルバムで、もう一枚がトッカータとフーガ等を演奏した、オルガンのための作品をとりあげたアルバムでした。バッハの作品以外にも、これまでに発売されたアルバムには、「展覧会の絵」を演奏したものと、ドビュッシーのピアノ曲を演奏したもの、ラヴェルの作品を演奏したもの等がありました。そのいずれの演奏も、思わず身をのりだして耳をそばだててしまうような、斬新きわまりない表現によっていました。

「音楽三昧」の音楽は、田崎瑞博の、それぞれの作品の本質をとらえた、センス抜群のアレンジと、さまざまな楽器を巧みにひきこなす、高度の技巧をそなえた音楽侍の技があつてのものといえるでしょう。彼らの演奏できと、奏



1. デビューアルバム「音楽三昧」。ムソルグスキーの「展覧会の絵」、チャイコフスキーのバレエ音楽「眠れる森の美女」を収録。ALM RECORDS (ALCD-7016)。2. 「音楽三昧」J.S. BACH トッカータとフーガ」。バッハのオルガン曲を収録。クレアシオン (CRT-1100)。3. 「音楽三昧2」。ショスタコーヴィッチの交響曲第5番、プロコフィエフの「ロメオとジュリエット」を収録。ALM RECORDS (ALCD-7026)。すべて2,625円。
●コンサート、バッハ「ゴルトベルク」は、2009年1/23、19時開演。ノバホール・ホワイエ(つくば)。全席自由、前売り2,500円、当日3,000円。2/1、14時半開演。東京オペラシティ リサイタルホール。全席自由、前売り3,500円、当日4,000円。お問合せ先は、共に「オフィシャルシュ」 ☎03-3320-2274 右の写真・武藤 章



ENSEMBLE ONGAKU-ZAMMAI
Mussorgsky: Pictures at an Exhibition
Tchaikovsky: from The Sleeping Beauty



ALCD-7016
ALM RECORDS